



## 百里の道も一歩から 1950 保

JH3AEF 東條純一

### 百里の道も一歩から 1950 保

単純明快、意味は読んで字のごとくである。後段の1950 保は各位のご想像どうり西暦1950年、保は男性の名前、N 保 先生を示している。見るたびに名句と感じ、何かいわれのある故事でもと、何度かことわざ辞典を紐解くが見当たらない。百里の項には“百里を行くものは九十里を半ばとす”があるのみだった。これまた名言であるが故事名言の解説はどなたか得意な先生にお任せしよう。

写真でお示しする一客の質素な湯呑がある。れっきとした赤膚焼きの湯呑である。そこにのびのびと書かれたこの一句、実に達筆、湯呑のカーブした表面にこんなに素晴らしい筆跡をのこすとは。1950 年は私が小学校を卒業した年、N 保先生は私が小学五年、六年生の時に担任をお勤めいただいた先生である。あの当時、一学級には50-60名の生徒が在籍していたものだった。その生徒各人に一個づつ卒業記念としていただいたのがこの湯のみである。生徒会費の足しにと古新聞を数枚づつ持ち寄ることがしばしばであったあの頃、卒業記念品代を徴収するなど想像もできない時代である。何せ我々の田舎小学校には卒業記念アルバムもなかった時代の事である。でも何かの機会に、先生は赤膚焼きの山の奥から沿線に出、学校に通勤されているというお話は聞いたことがあった。窯元と何か関係がおありになったのかも。実は不義理にも卒業以来先生には一度もお会いしたことがないのだ。疎開、転居を繰り返した終戦間もなくのあの頃とはいえ、今になって何と不義理なことかと後悔しきりである。

高校時代、田舎から出てきて、よそよそしい都会の生活に苦労したあの頃も、湯呑は私の本箱の片隅にいつもきちんと飾られていた。ゆーらり立ち上る湯気を見ながら安物のお茶を飲むことは勉強からの解放には大いに役立った。しかし、兄弟喧嘩の度に本箱のノートや書籍は完全な襲撃を受け、全てが掻き落されたこともしばしば

であり、大切な湯呑もごたぶんにもれず床に吹っ飛んでいた。幸いなことに畳の部屋だったことが難を逃れた。何となくさっぱりしない浪人時代も、同じように湯呑は私に静かな解放感を与えてくれた。医学生になり一気に目標を目指して動き出したあのころ、お茶をいれ湯気をゆっくり感じるうつろな時間は日常から徐々に少なくなり、湯呑だけが本箱の棚の目立つ場所に鎮座していた。矢張りこの湯呑は僕の宝物だったのだ。

時がたち新婚生活が始まった。親父が手に入れていた戦前築のあばら家に多少の手を加えた新居で生活が始まった。もちろん二世同居である。それでもご多分に漏れず生活用具は多くが新しいものに入れ替わった。新しい食器棚が入り、キラキラした洋食器が棚を眩しく飾っていた。僕は何も言わずにあの湯呑をその中心に据えた。今やあののびり立ち上る湯気を感じるいとまさえない大車輪の生活の毎日であった。

ふとある日、気が付くと湯呑が中心から少し外れた位置に鎮座していた。僕はwifeには何も言わず、元の位置にもどしておいた。しかしこの湯呑、足が生えたように棚の上下のあちこちを行ったり来たりしているのに気づいた。たまたま僕はこの由来をwifeに話した。Wifeは決して反論はしなかったが、その顔には“私の選んだスマートな食器の中あの湯呑、内側を覗いたら茶渋で真っ茶色に変色したあんなもん全然似合へんわ”との意向がありありとうかがえた。

時が経つにつれてこの湯呑の比重も少しづつ軽くなったのであろうか。ある時には食器棚から消えているのに気付いたこともあった。何かwifeの機微に触れるようなことでもあったのか、相当の時間を置いて“あれ、知らんか？”と持ち掛けても一向に反応が無い。まさか割ってしまうこともなからうと、こちらも長期戦でかまえていた。何年もあの湯呑を見たことがなかったが、ある時突然何の予告もなしにあの食器棚の真ん中に鎮座しているのをみつけた。それはwifeが不治の病の宣告を受けたあ

の頃の話であった。

全く話は変わるが私は山歩きを趣味とする。今年は梅雨の合間を見て知る人ぞ知る“ダイヤモンドトレイル”の踏破を試みた。即ち、大阪府の南東から南に連なる山並み、北の端、出発点は近鉄南大阪線二上山駅北に位置する鈍鶴峯から南に向けて二上山、岩橋山、大和葛城山、金剛山、ここから西に向かって神福山、紀見峠、岩湧山そして槇尾山を終着点とする全長約60Kmを踏破するトレッキングコースだ。競技の為に開かれたコースだから、通過する山々は全て山頂を通過するよう設定されている。普通尾根歩きは必要がなければ山頂は避け、なるべく高低差を少なくするように設置されているものなのだが。

もちろん私はトレッキングの競技に参加するのではない。全く my pace の山歩きなのだから先を急ぐ必要はない。約60Kmのこのダイトレコースを三つに分けて毎回約20Kmを6-7時間かけて踏破することを目標とした。しかしコースは正確に峰々をトレースするという固い信念にもとづいていた。ために一日の行程を終えた際には麓まで下山し、公共の交通機関を利用して帰宅、次は同じ交通機関で麓までもどり前回の尾根筋まで歩いて登るを繰り返した。急峻できつい登りに差し掛かるたびに“百里の道も一歩から”が頭の片隅にちらつき、大柄でオールバック、優しい細目でエラのはったN保先生の姿が脳裏をかすめるのだった。

ダイトレコースの終着点に立ったとき、その先、西方を眺めれば、さらに緑の山並みは続いている。せっかく山並みが続くのにただ見ているだけではもったいない。引き続き私のダイトレ+アルファは進行中である。すでに三国山から鍋谷峠までは歩を進めた。引き続き和泉葛城山から犬鳴山までは次のレグと待ち構えるが、どうも天候が不安定で待機を余儀なくされている。いづれこの+アルファは西に延び加太の海辺で瀬戸内海に行き当たることになるであろう。

## アメリカで皆既日食

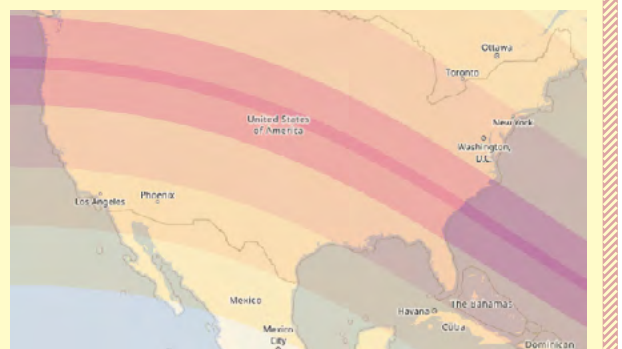
8月22日に皆既日食が起ります。

残念ながら日本では日食を見ることができませんが、アメリカの一部で皆既食を、北米大陸全域や南米大陸北部などで部分食を見ることができます。

地球全体で考えると、前回皆既日食が起こったのは2016年3月9日でした。そのときには、インドネシアや太平洋の一部などで皆既食が起こりました。

そして、次回皆既日食が起こるのは2019年7月3日です。南太平洋や南米大陸の一部で皆既食を見ることができます。

日本に限ると、次に皆既食を見ることができるのは、2035年9月2日です。関東北部から能登半島にかけての地域で皆既食を、日本全国で部分食を見ることができます。







# 東海ハムの祭典

JA3IVU 北井 十生

今年3月に「西日本ハムフェア2017」、7月に「KANHAM2017」に続き7月23日「東海ハムの祭典2017」に行って来ました。

まあ次々とよく出かけるなと言われていたのですがそのようなことは気にせずに、おまけに9月の東京「ハムフェア2017」にも出かける予定です。もう一つ9月に「北海道ハムフェア2017」もありますがここは出かける予定はありません。

7月23日、東海ハムの祭典は愛知県日進市民会館で開催されるということで前日の午後自宅から急ぐこともないので国道25号線を天理まで行き、そこから名阪国道に乗り、途中、「伊賀」と東名阪道の「御在所SA」とゆっくり立ち寄りながら伊勢湾岸道の「刈谷ハイウェイオアシス」で休憩。隣接している「天然温泉 かきつばた」に入り汗を流した。

その日は車中泊したが暑くなかった。

朝、6時過ぎ、出発し「豊田南IC」から日進市へ7時前に市民会館に到着した。もうすでに駐車場に入る車が5台並んでいた。少し離れた未舗装の駐車場は開いていたのでそこへ移動した。そこには7MHzに運用中のJA2の

局とJA9の局がいたのでお空の様子は聞くとあまりよくないとのこと。JA2の局(8J2016Y)はCWで盛んにCQを連発し、やっとパイルアップになったようで開会までに100局を超える局とQSOしたとのこと。

9時半ころになると駐車場が満車になってきた。

暑くなってきたので会場内に入れられるのかと思い、玄関に行くと思が開いており、中にはたくさんの方がいた。以外にも出展会場へは自由に入れた。

9時55分から開会式があったが挨拶はなし来賓紹介とテープカットのみで音響設備がないためMASACO(JH1CBX)さんは声を張り上げて司会進行した。会場内は、1階に販売展示と展示が2室、2階に展示と講演会が各1室、大ホールでは愛知県支部大会、コンサートなど。

展示、販売はKANHAMに比べるとこじんまり。参加人数は1300名と発表されている。

販売コーナーで行列ができていたので何の販売と聞いたら渥美半島の「メロン」だった。

常連さん聞くと東海ハムの祭典では恒例らしい。すでに買っていた方から2つわけていただいた。

USBIF4CWのコーナーではデジタル用のインターフェース(digiaid)を購入した。これはデジタル用であるがCWも可能。ただしエレキ内蔵していないのでパドル入力はなく、PCから操作のみ(CTESTWINなどコンテスト用はCWも可能、手打ちするには外部エレキ要)

関西からの20人ほどの方も来場されていた。

会場の日進市民会館は駅からも離れおり(タクシーで約10分、歩くと30分以上)、車が便利。駐車場は400台ほどあり10時ころでも入場できたらしい。

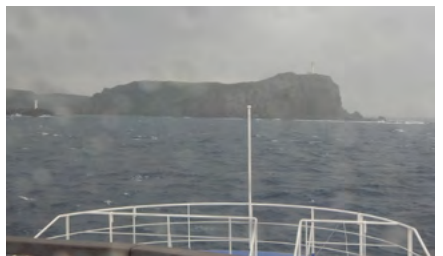
午後から雨が降り出し、止み間にメロンを持って車へ行くと土砂降りの雨になり、会場に帰れなくなり、そのまま帰路へ

しかし、名二環線に入ったが「伊勢湾岸道」いくつもりが方向を間違え「東名高速」の方へ行ってしまう、しかたなく東名高速を東京方面へ、豊田JCTから伊勢湾岸道へ、時間と料金のロスをしてしまった。伊勢湾岸道、東名阪道、名阪国道、西名阪道で時間帯が違ったのか渋滞にも合わず無事帰宅した。

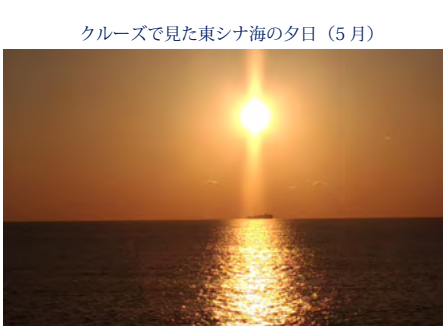
## JA3USAの旅写真 (2017年1月-6月)



カルタゴ博物館で - ガイド、3V8SS とXYL (1月初旬)



与那国へのフェリー前方には日本最西端 (2月下旬)



クルーズで見た東シナ海の夕日 (5月)



TL8TT 運用で訪れた中央アフリカで (2月上旬)



オレゴンの桜 (3月)

オレゴンの裏庭にできたサクランボ (6月)



釜山でHL5BTF とXYL (1月下旬)

**Newsletter**  
<http://ji3zag.net/html/nl.html>  
 会報を自由にダウンロードすることができます

**Monthly meeting**  
 at International House Osaka  
 the 2nd Friday of each month (July 14)

**Web:** <http://ji3zag.net/>

**Rollcall**  
 Every Saturday 00:00UTC @21.370MHz